

平成28年度有責事故件数・損害額の達成状況及び平成29年度抑止目標

	有責 事故件数	事故損害額	事 故 内 訳						チェック (何が不十分だったか)	アクション (改善すべきこと)	29年度 有責事故 抑止目標	29年度 抑止目標 損害額
			バック	接触衝突	追 突	交 差 点	人・自転車	その他				
1 課	16	1,112,047	8	6	0	0	1	1	「だろう」運転が主な原因。焦りから慌てて運転している。	お客様が安心して乗れる運転をしていれば事故はしないはず。安全確認の徹底。	8	600,000
2 課	7	331,597	1	4	0	0	1	1	緊張感が足りず、注意不足になっている。	回りを確認して急がずに一呼吸おいてから。	8	600,000
3 課	11	526,342	7	4	0	0	0	0	バック時、不安があっても感覚で行動して、下車しない、確認を怠っている。	バックは極力しないで、不安があれば下車して確認する。常に心に余裕を持つ。	8	600,000
4 課	12	836,322	7	4	0	0	1	0	バック時、不安があっても感覚で行動して、下車しない、確認を怠っている。確認不十分である。周囲の状況の確認不足。	バックに関しては、目で再確認すること。周囲の状況を見て、落ち着いて動く。	8	600,000
5 課	13	2,005,529	6	1	1	2	0	3	気持ちに余裕がなく、焦って無理をした。	無理せず、「迷ったら止まる」を常に心がける。	8	600,000
6 課	5	213,201	1	4	0	0	0	0	忙しいと焦って、冷静さに欠ける。	忙しくても、落ち着いて確認をしっかりとる。	8	600,000
7 課	12	804,822	3	4	2	0	1	2	注意不足、集中力に欠けた。慢心運転。	バックする時は、考えてする。見えない所はしっかりと確認する。	8	600,000
8 課	23	736,583	8	11	1	0	0	3	バック事故は、少しの減少に留まり、さらに接触事故件数が増えている・お客様降車後の方向転換に、低い位置にあるブロックや花壇での接触、側溝での脱輪が目立つ。	方向転換時、死角となる低い位置にある物に意識を持ち「だろう運転」ではなく、焦らず周囲確認後に発進を行う。気持ちにゆとりを持ち、一時停止、方向指示器、下車誘導、下車確認等決められた基本動作を履行する。	13	800,000
9 課	9	189,777	5	2	1	0	1	0	周囲の確認不足が原因。	しっかりと緊張感を持って！バック時は下車して後方確認。	5	300,000
軽貨物	3	92,661	1	1	0	0	0	0			3	100,000
その他	0	0	0	0	0	0	0	1			0	0
全体	111	6,848,881	47	41	5	2	5	11	漫然運転撲滅	バック事故・接触事故を半減させよう！	77	5,400,000